

リジッドヘドルルームで
手織りを学ぶ



ashford
WHEELS & LOOMS

spinning | weaving | carding | felting | knitting | dyeing

ようこそ、素晴らしい手織りの世界へ・・・

初めてのスカーフを織る

用意するもの：

よく切れるはさみ、メジャーテープ、

紙製ワープスティック

テーブル

糸：この作品では、アシュフォードテカポヤーンのを使用しています。少し質感のある手紡ぎ風のなめらかなDK(ダブルニット)スポーツウェイトヤーンです。

アシュフォード テカポ 8ply / DK yarn (100% wool, 200m/218yds, 100gm net) #206 ナチュラルホワイト、#230 ミッドナイトブルー、#229 ストーンウォッシュ、#228 シルバー

たて糸

アシュフォードテカポヤーンのブルー、シルバー、ホワイトのストライプ

長さ - 2m (両端のフリンジ分23cmを含む)

たて糸の数 - 84本

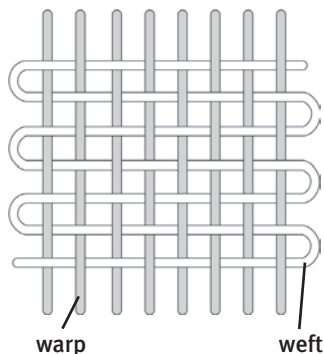
仕上がり幅 - 28cm

よこ糸

アシュフォードテカポヤーン#206 ナチュラルホワイト

たて糸とよこ糸

まず、全ての織りの基礎となる2つの用語を覚えましょう。最初に、はたの前と後ろのローラーの間に張られるのが「たて糸」です。そのたて糸の上下を交互にくぐりながら、織物の端から端まで通っているのが「よこ糸」です。



シェッド

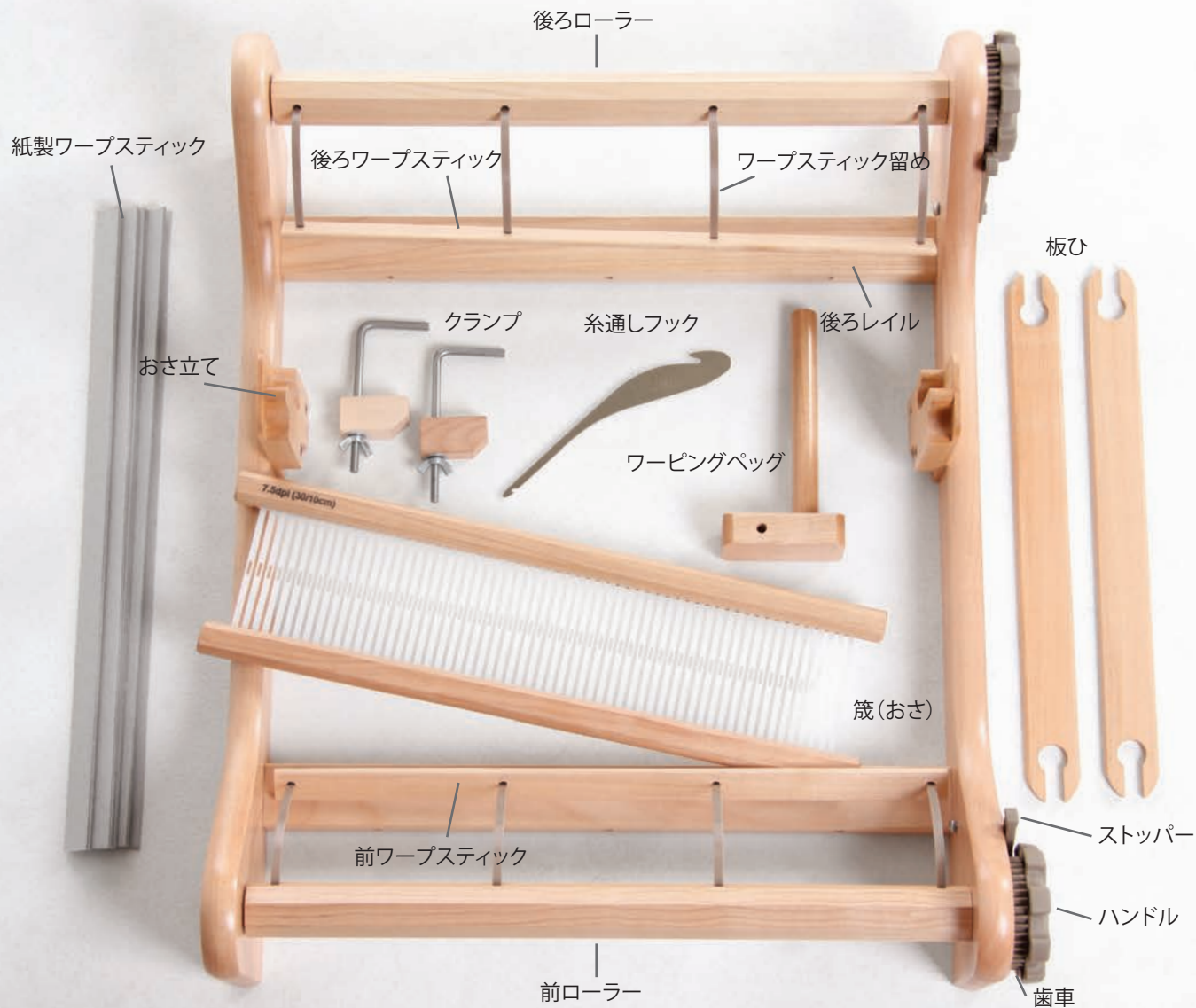
たて糸の間が上下に分かれ、すきまができます。そこにシャトルを通します。

オプション

箆 10、20、30、40、50、60羽/10cm、 組み合わせ箆キット、フリーダムローラー、テーブルスタンド、ルームスタンド、整経ペグ、ピックアップスティック、板ひ、ウィービングニードル、タペストリービーター、たて糸おもり、フリンジツイスター

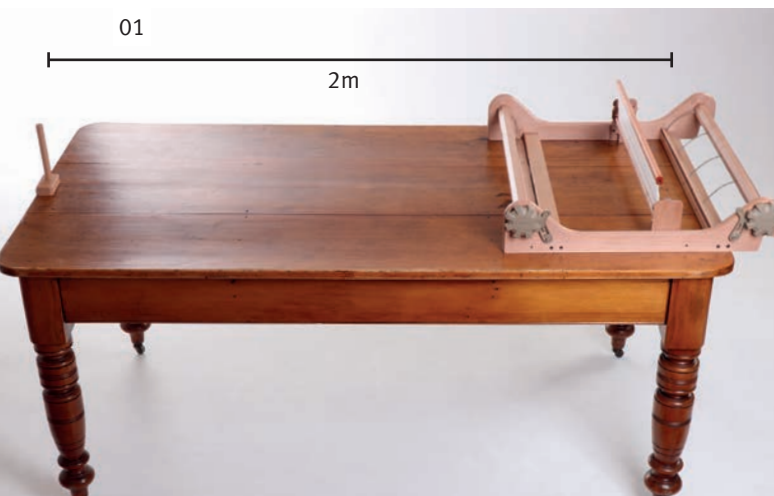


リジッドヘドルルームとスタンド



この織機について

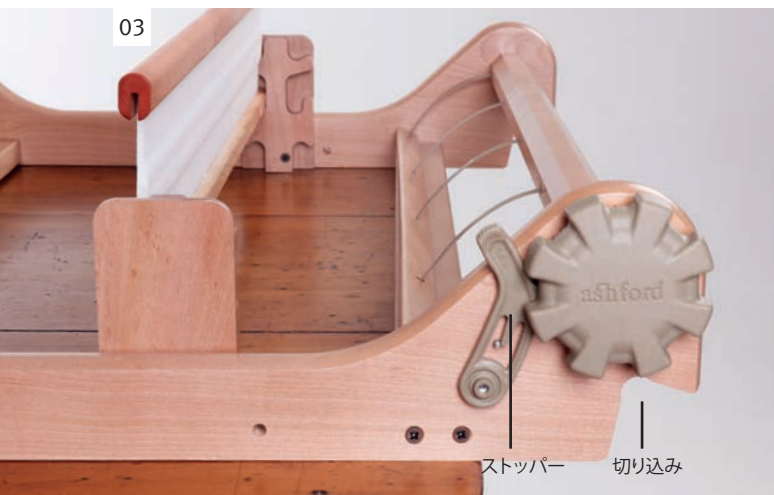
おさには、たて糸を通すための穴と溝が交互に空いています。それによって、よこ糸を通すすき間ができます。また、通したよこ糸を打ち込む役割もあります。このおさは、10cmあたり30本のたて糸が通るようになっています。板ひは、よこ糸を端から端に渡し、織物にしていぐために使います。ワーピングペグ、糸通しフック、クランプ 2 個は、たて糸を張る時に使います。



長いテーブルもしくは2台のテーブルに、織機とワーピングペッグを置きます。織機の後ろローラーとワーピングペッグとの距離を2m取ります。



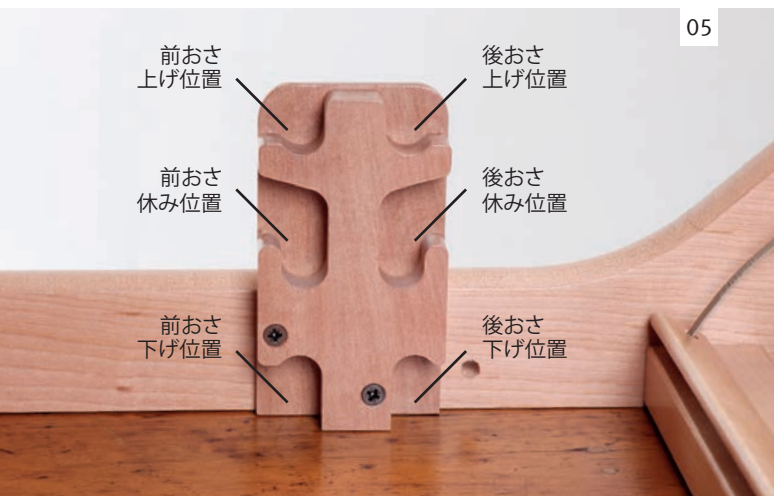
織機の後ろレールの真中の穴にクランプを差し込み、織機をテーブルに固定します。



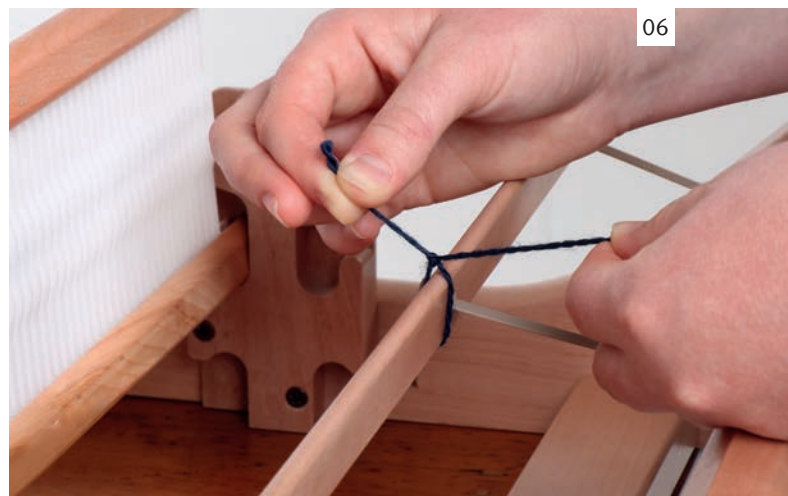
下面に切り込みがある方が、織機の後ろになります。前後のストッパーが歯車にかかり、ブレーキがかかっている状態にします。



ワーピングペッグの土台の穴にクランプを差し込んでワーピングペッグをテーブルに固定します。(テーブルの厚みが足りない場合は、ワーピングペッグの土台全体をクランプで挟みます。)



おさ1枚で織る時は前おさの位置を使用します。
二重織りなど、おさ2枚使う時は前おさ位置と後おさ位置、
両方を使用します。
*おさ立てには、前おさ用の位置と後おさ用の位置それぞ
れに、上げ位置・休み位置・下げ位置があります。



たて糸は84本ですので、おさの溝42か所に2本ずつ糸を
通します。糸を通し始める溝の位置は以下を参照してくだ
さい。通し始める位置の後ろでワープスティックにたて糸を
結びます。



通し始める位置:

40cm 織機 - 端から9番目の溝
60cm 織機 - 端から24番目の溝
80cm 織機 - 端から39番目の溝

最初の溝に糸通しフックを差し込み、糸を引っ掛けて手前
に引きます。

*2枚おさを使う方法はアシュフォードwebsiteをご覧ください。
www.ashford.co.nz/doubleheddle



通した糸を、そのままワーピングペグまで持っていき、輪になった部分をワーピングペグに引っかけます。
この時、毛糸玉は、織機の後ろの床に置いておきます。

*毛糸玉が床の上で転がらないよう、籠などに入れておきましょう。



09

糸通しフックを隣の溝に差し込みます。糸を後ろワープスティックの下から引っ張り出してフックに掛けておさから引き抜き、先程と同様に糸の輪の部分にワーピングペッグに掛けます。糸の張り具合が一定になるように気をつけましょう。



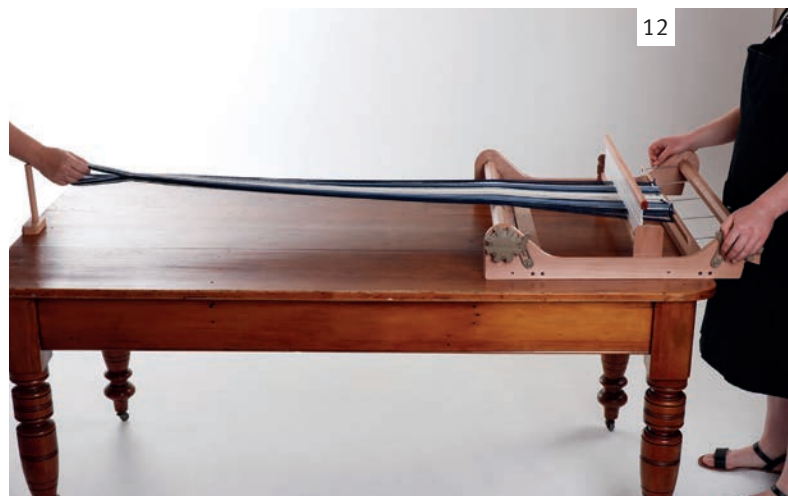
10

隣の溝に進みます。今度は、後ろワープスティックの上から糸を引っ張り出しておさの溝を通り、ワーピングペッグに掛けます。これを繰り返し、糸がワープスティックの下、上、下、上を通るようにし、溝42か所に糸が2本ずつ入っている状態になります。(総本数84本)



11

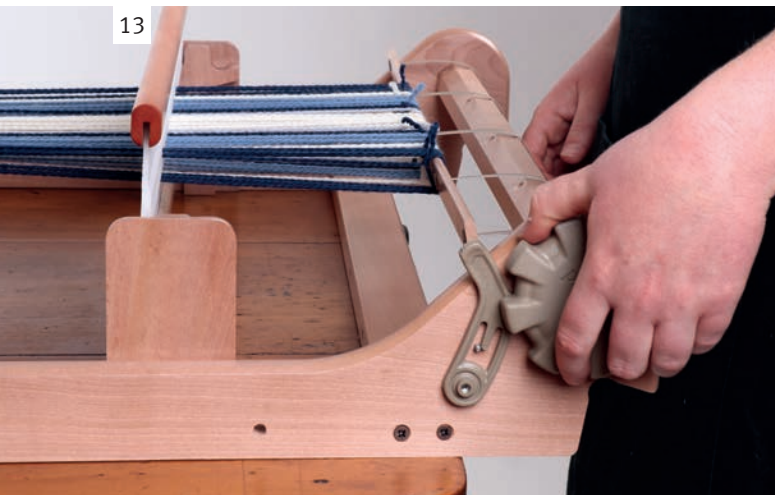
色を変える時は、糸を切って後ろワープスティックに結び、新しい色の糸を同様に結びつけます。次の溝に新しい糸が輪の状態で通るようにワーピングペッグに引っ掛けます。ステップ09と10の工程を続けます。最後の糸は後ろワープスティックに結び、切ります。



12

誰かに糸の端の輪のところを持ってもらい、たて糸が巻き取られるにしたがって、少しずつ前に進んでもらいます。
*一人で経糸を巻く方法はアシュフォードwebsiteをご覧ください。 www.ashford.co.nz/solo

13



織機の後ろに立って、後ろのハンドルを手前に回し、後ろワープスティックがローラーの上を一周するまで巻きます。

14



紙製ワープスティックか、ローラーと同じ幅の紙を挟みます。

15



紙製ワープスティックや紙を挟むことにより、重なり合う糸同士を離して糸の張りを均等にします。紙は次々に足していきます。

16



たて糸の端が前ローラーを通り過ぎた辺りまで来たら、巻くのを止めて、糸の束の輪になった部分を切ります。切った後はそれ以上巻かない様にする。
織機を固定していたクランプを外します。



17

一番端の溝に通っている2本の糸のうちの1本だけを引き抜き、糸通しフックを使って右隣の穴に入れます。もう1本の糸はそのまま溝に入っている状態です。(写真は、おさの後ろ側から撮ったものです。)

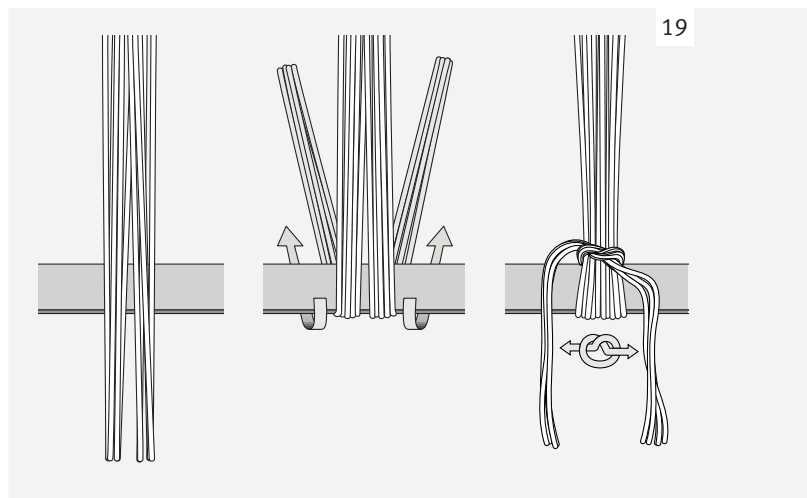


18

全ての穴に通します。
これで穴と溝の両方に糸が通りました。(写真はおさの前側から撮ったものです。)



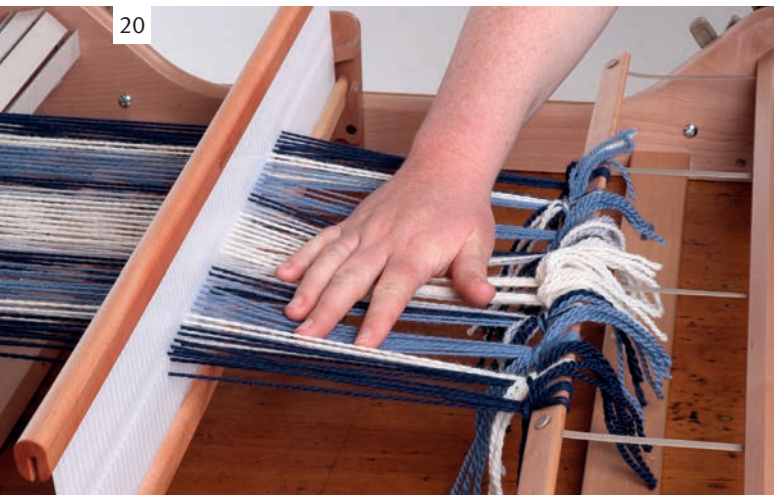
糸を何束かに分け、1つの束の糸を前ワープスティックの上から掛け、スティックの向こう側で糸を2つに分けて1回結びます。全ての糸の束を同様に結んでいきます。



19



他の結び方も YouTube でご覧いただけます。 <https://youtu.be/bnrCoijfZVY>



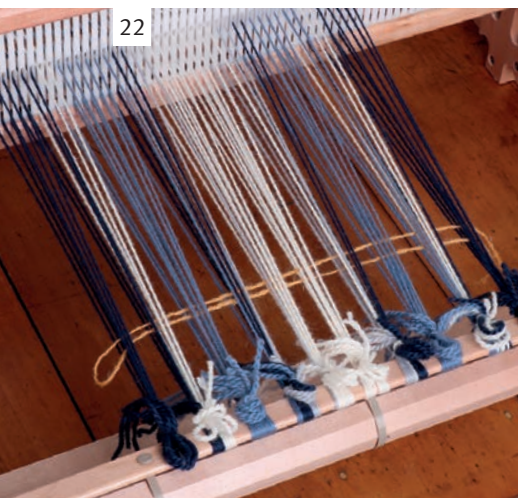
20

全ての糸の張りが均等かどうか確かめます。張りがゆるい束の調節の方法は、結び目の両側の糸の束を持ち、おさの方向に優しく引っ張り上げ、横に引き締めます。



21

片蝶結びで留めます。織り上がった時、この結び目は解きますので、ほどきやすい結び方にします。



22

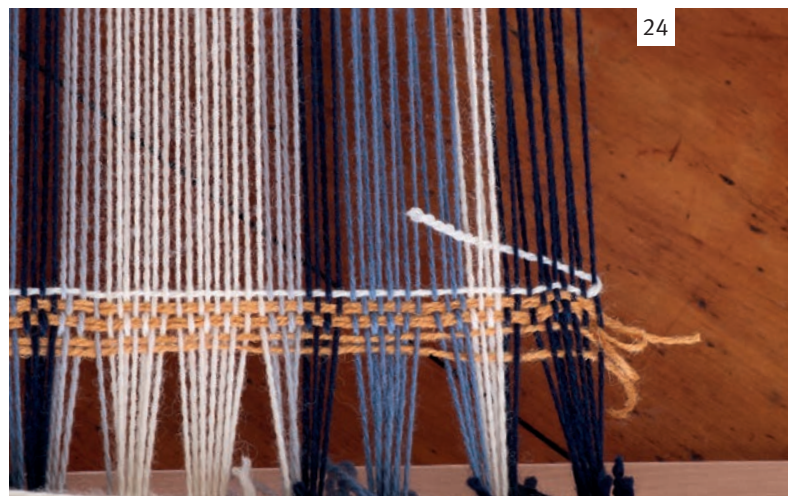


織り始める前に、以下の方法でたて糸のすき間の間隔が揃うまで捨て織りをします。後ろハンドルをほんの少し後ろ側に回し、ストッパーを引いて歯車から外すと、たて糸が緩みます。後ろハンドルを持ちながら前ハンドルを手前に回し、たて糸を結んだワースティックが前ローラーに届いたら、後ろのストッパーをカチッと押し込み、糸を緊張させるためにハンドルを回します。おさを上げ位置にします。たて糸のシェッド(すき間)に糸を輪にした状態で、右側から渡します。ここでは打ち込まず、おさを下げ位置に変えて、また輪の糸を通します。この捨て糸は後から抜きやすい様に、輪がたて糸の両側からはみ出すようにしておきます。再度おさを上げ位置にし、繰り返します。おさを優しく引き寄せて、この捨て糸をたて糸の結び目の方に押し込みます。

YouTube でご覧いただけます。 <https://youtu.be/A-SW47MtrsQ>



織り始めましょう。よこ糸を板ひに巻きます。おさを下げ位置にします。板ひをシェッド(すき間)に通し、おさを優しく引き寄せて最初の段を捨て糸のところまで打ち込みます。



おさを上げ位置にし、糸の端を指でシェッドに通します。上げ位置のシェッドに板ひを通します。優しくおさを引き寄せ2段目のよこ糸を打ち込みます。

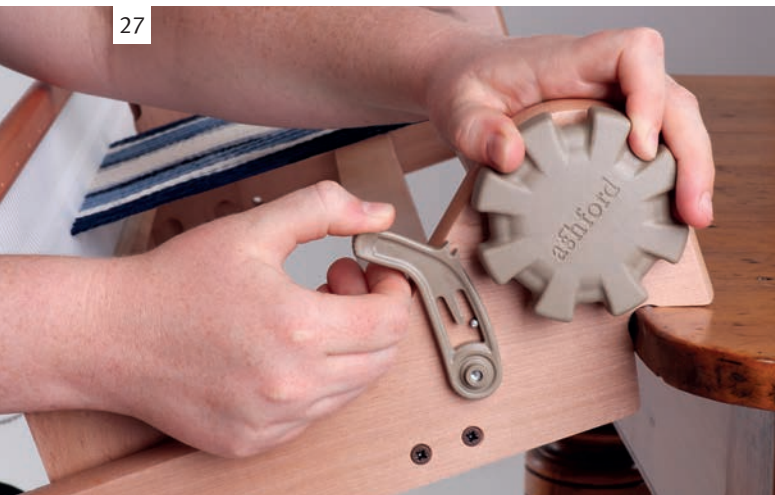


ヒント:耳をまっすぐに織るために、よこ糸を通したら、端を指でつまみ、斜めに30度の角度をつけて糸の長さを確保します。縁がつれるのを防げます。また、おさを引き寄せる時、強く打ち込まず優しくしましょう。段と段の間に小さなすき間ができるようにします。



おさから約8cmのところまで、同様に織ります。織った布を前ローラーに巻き取るために、まずおさを休み位置に置きます。

27



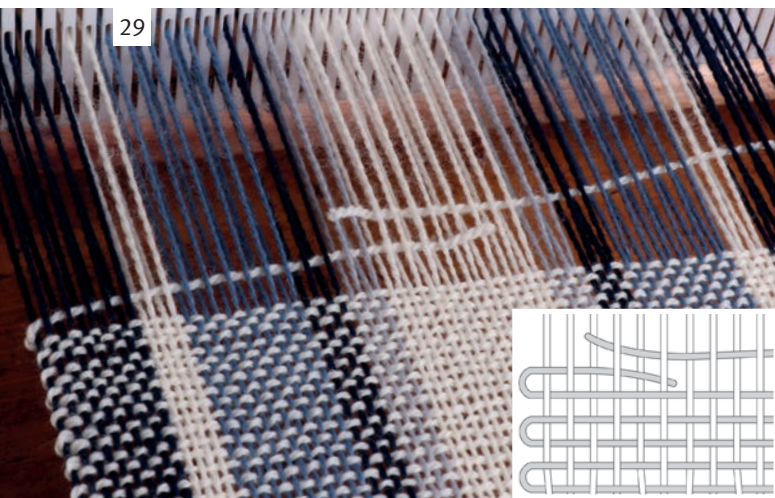
ハンドルを少し後ろに回し、ストッパーを引いて歯車から外し、たて糸の張りを緩めます。ハンドルを手前に回すとたて糸が巻き戻ります。ストッパーを留めます。たて糸を巻き戻し過ぎないようにしましょう。

28



次に、前ハンドルを手前に巻き、最終段が前ローラーから約5cm離れた辺りになるまで巻き取ります。たて糸の張りを調整します。織った布はこのように前ローラーに巻いていきます。
ヒント:最初の結び目を覆うように厚めの紙を挟んで巻き取るようにします。

29



途中で板ひに糸が無くなってしまったら: 板ひに新しい糸を巻きます。糸を継ぐ時は、前の糸の終わりと新しい糸の始まりを同じシェッドの中で重ねて打ち込みます。飛び出た糸端は後で切ります。

30



最後まで織り続けます。後ワープスティックに沿って経糸を切ります。ワープスティックタイを切らないように注意しましょう。



31

前ストッパーを外し、前ローラーから織物を引き出します。



32

前ワープスティックの結び目をほどきます。織機から作品を降ろします。



33

4本を1束にして結びフリンジにします。はみ出しているよこ糸の端は針で織り目に沿って縫いこむかフリンジとして一緒に結びます。フリンジツイスターを使う方法もあります。最終ページをご覧ください。



(織り機から降ろしたままの状態)



34

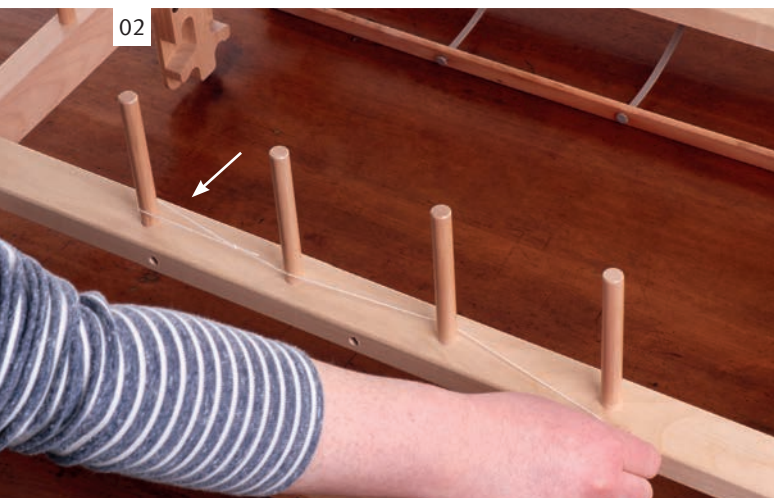
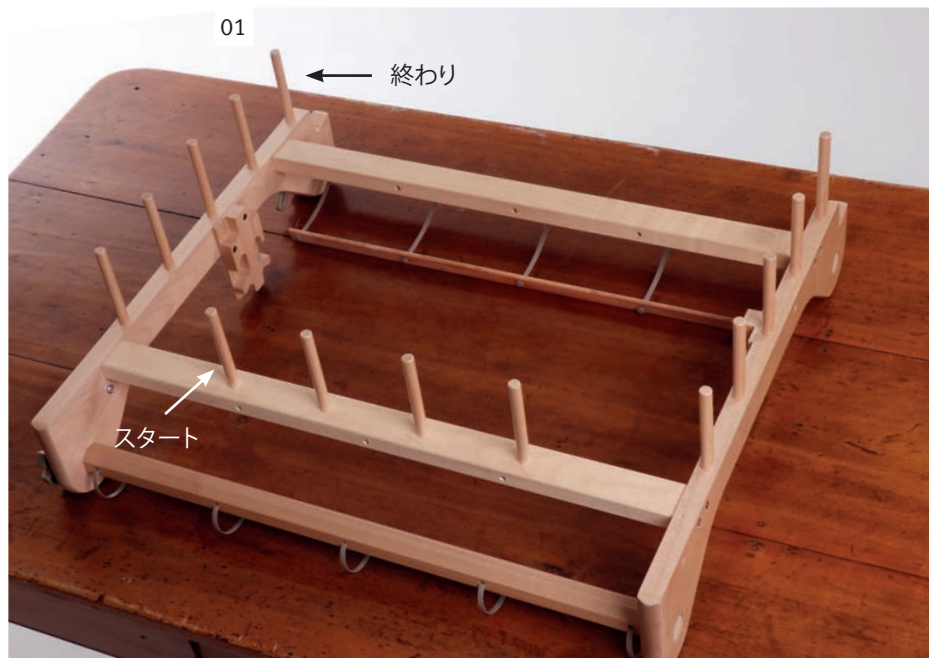
(洗った後)

織り上がった作品は、洗うと糸が膨らみ糸と糸のすき間が埋まり、より仕上がり感ができます。洗い方は後ろのページを参照。

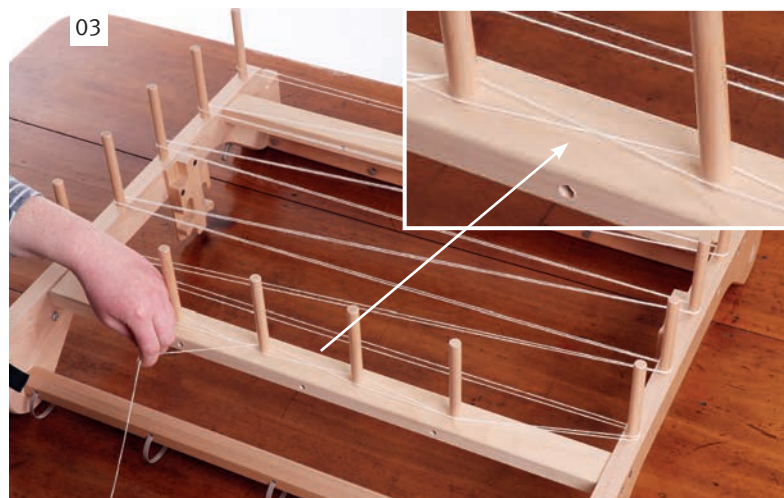
織機裏面での整経

オプションでリジッドヘドル整経ペグをご用意しております。織機の裏面を整経台とし、たて糸を用意します。この方法なら、たて糸1本ずつ色を変えることができ、また広い場所を必要とせず、整経長を長くでき、またテンションも一定にしやすくなります。

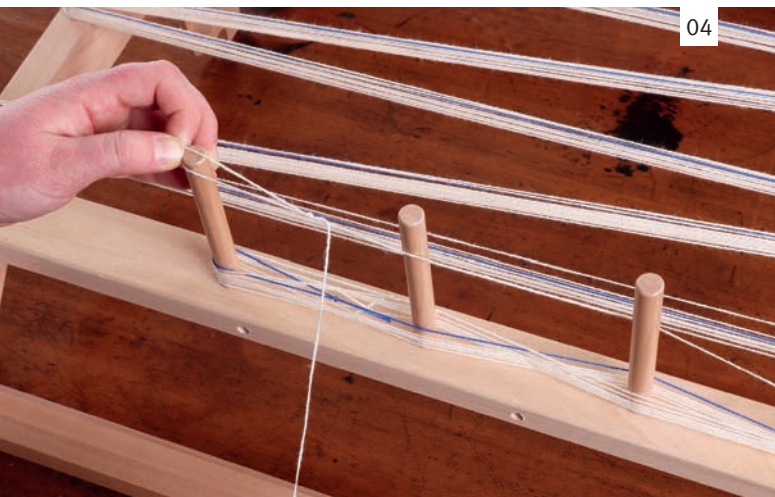
たて糸の必要な長さを計算します。その長さ分の捨て糸を用意し導き糸とします。どのペグに掛けていけば導き糸の長さになるかを決めます。



たて糸をスタートの棒に結びます。必要な長さのたて糸をペグに掛けていきます。3本目のペグには斜めに糸をかけます。最後まで来たら、折り返し同じ道順でスタート位置まで戻ります。



戻る時、スタートから2本目と3本目のペグの間で糸がクロスするようにします。スタートのペグに掛けてまた最後まで糸を掛けていきます。1本目の糸と同じ道筋を通ります。折り返して戻る時は3本目の糸と同じ道筋です。1本ずつクロスすることで、糸の順番が乱れません。(綾)



04

別の色の糸に替える時は、糸を切ってスタート位置のペグに結んでおきます。次の色の糸をまたスタート位置から掛けていきます。



05

デザインによって、1本だけ別の糸を入れる場合は、スタート位置からペグに掛けていき、糸を切って最後のペグに結びます。



06

全ての糸を整経したら、クロス(綾)の位置の両側のすき間に長めのひもを通し、輪にして結びます。



07

スタート位置と最後の位置と、ペグの4本目と5本目の間を紐でしっかりと結びます。(その他数か所も糸が乱れない様に結んでおきます。)



最後のペグからたて糸を外し、その輪になっているところに手を入れて前方のたて糸をつかみ輪の中にくぐらせます。



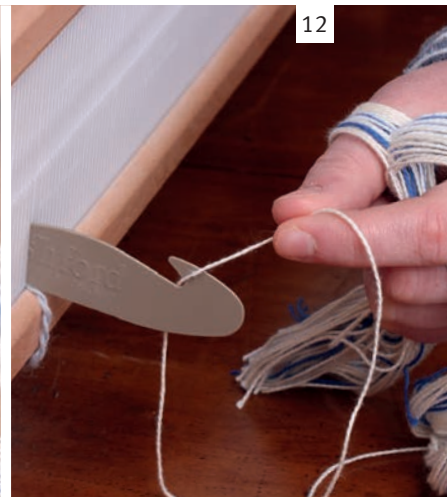
新たにできた輪に手を通し、またたて糸をつかんで輪の中にくぐらせます。綾のところまで、この鎖編みをします。



織機を表に返し、鎖編みをしていない方のたて糸を前ローラーに結んでおきます。



端の輪になっている部分を切ります。



12

おさを休み位置に置きます。綾の部分のすき間にそれぞれ親指と人差し指を通します。綾のクロスになっている部分の一番外側の糸を取ります。織機の後ろ側からおさの溝にフックを差し込み、織機の前側で糸を掛けて引き抜きます。続いて、おさの穴にフックを差し込み、糸を引き抜きます。



13

全てのたて糸を穴と溝に通したら、数本の束ごと後ワープスティックに結びます。「初めてのスカーフを織る」のステップ19-21を参照してください。



14

前ローラーに結んでおいたたて糸を解きます。たて糸を引っ張り気味にし後ろローラーに巻き付けていきます。誰かに手伝ってもらえる場合は、織機の前側で、鎖編みの端を持ってもらい、糸の張りを保ちながら巻きとります。



たて糸を巻き取る時に紙製ワープスティックを挟みながら巻きます。少なくとも1回転につき1本入れましょう。



YouTubeでご覧いただけます。
<https://youtu.be/bnrCoijfZVY>

最後に、捨て織りをして、たて糸の間隔を均等にします。



YouTubeでご覧いただけます。
<https://youtu.be/A-SW47MtrsQ>

これで準備完了です。

仕上げ

織った布は洗うと糸が膨らみ糸と糸のすき間が埋まり、より仕上がりがり感が出ます。

洗ひ方

少量の洗剤を入れたぬるま湯にスカーフを浸し、軽く押し洗いをします。石鹼水を流し、きれいなぬるま湯ですすぎ、柔軟剤を入れたぬるま湯に浸けた後、軽く絞って干します。タオルの上に重ねて干すと折り目が付きません。まだ濡れているうちに柔らかい綿布で当て布をしアイロン掛けをします。完全に乾くまで、再度干します。

初めての手織リスカーフの完成です！

きれいに織るコツ

おさの打ち込み

優しく打ち込むようにしましょう。織っている時はすき間が空いていて緩いように見えますが、それは、たて糸にテンションがかかっているためです。織り機から外し、洗うとすき間は小さくなります。

テンション

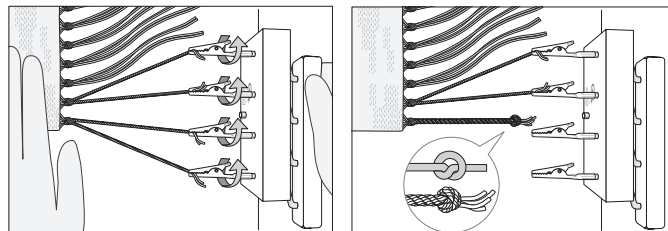
たて糸をきつく張りすぎないようにしましょう。おさを上げ位置に置いた時おさが倒れない程度に、たて糸にテンションをかけます。おさを上げ位置・下げ位置に置く際、動かすにくい場合は少しテンションを緩めます。たて糸の張りがきつすぎると糸や織り機に負担がかかります。

ストレス無く、楽しみましょう。

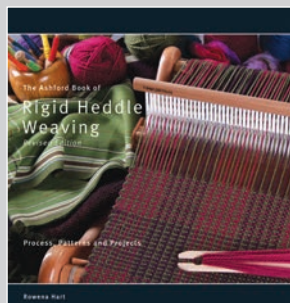
フリンジを作る

フリンジツイスターがあれば、素早く簡単に房が作れます。

YouTubeでご覧いただけます。
<https://youtu.be/8b2jL4UgsfA>



Also available from Ashford



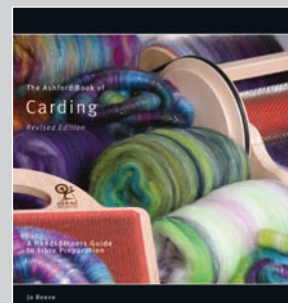
The Ashford Book of Rigid Heddle Weaving
By Rowena Hart
ISBN: 978-0-9582881-1-8



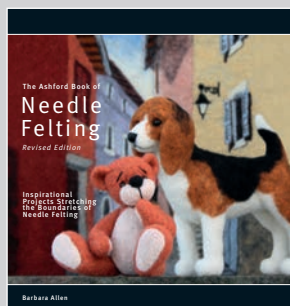
The Ashford Book of Weaving Patterns from Four to Eight Shafts
By Elsa Krogh
ISBN: 978-0-9582881-7-0



The Ashford Book of Hand Spinning - By Jo Reeve
ISBN: 978-0-9582881-5-6



The Ashford Book of Carding - By Jo Reeve
ISBN: 978-0-9582881-9-4



The Ashford Book of Needle Felting
By Barbara Allen
ISBN: 978-0-9582881-2-5



The Wheel Magazine

Ashford's annual fibrecraft magazine. Spinning, weaving, felting, dyeing and knitting projects, patterns and articles from around the world.
To receive the premium version delivered to you, subscribe at:
www.ashford.co.nz/subscribe



Join us on facebook
www.facebook.com/ashford.wheels.looms

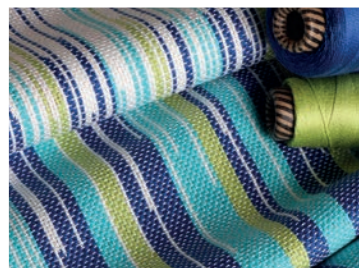


Watch our *how-to* videos on You Tube
www.youtube.com/AshfordHandicrafts



Join us on Instagram
[@ashford_wheels_looms](https://www.instagram.com/ashford_wheels_looms)

For more information, helpful hints and inspiration we recommend The Ashford Book of Rigid Heddle Weaving.
Visit our website to view our tutorial videos www.ashford.co.nz



LTWRH VW3

Ashford Handicrafts Limited
415 West Street, PO Box 474, Ashburton, New Zealand
Ph +64 3 308 9087 sales@ashford.co.nz www.ashford.co.nz

ashford
WHEELS & LOOMS

